

古(いにしえ)の歴史を持つ 上坂部 伊佐具神社 と 校章

上坂部小学校の校章は、郷社 伊佐具神社 (いさぐじんじゃ) の御紋をいただいたもので、菊花12弁に3つの巴があり、その中に「上坂部」と記しています。校歌も「1. 巴は水の湧く姿～ 2. 白菊黄菊 咲きそろろう～」と紋様に由来します。

伊佐具神社は、尼崎市上坂部に鎮座し、尼崎で最も古い歴史を持つ神社です。市内で唯一の式内社 (延喜式神名帳に記された神社)、旧官幣小社 (官=朝廷・国から幣帛料《へいはくりょう・祭祀の費用》を支弁される神社)で、『撰津名所図会』には「上坂部村にあり。『延喜式』に出づ。今、稻荷明神と称す。森村とともに産土神とす」と記されています。

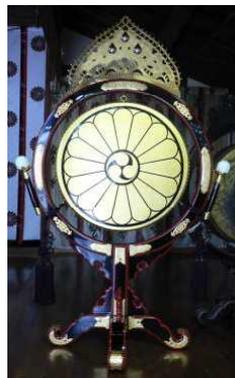
御祭神は、伊狭城入彦皇子 (いさぎりひこのみこ=景行天皇の第十皇子、兄は日本武尊) です。神功皇后が筑紫に行幸される途中、当神社前に祈誓した故事 (撰津国風土記逸文・美奴売《ミヌメ》の松原の条)により、創立は仲哀天皇 (日本武尊の第2子、西暦192年即位 実在不明) 以前との説もあります。

当社には、川辺郡式内社7社の中で唯一、皇室から鉾や鞆が奉獻されていました。さらに「延喜式玄蕃寮 卷21」には、新羅からの客に賜う神酒を造るための稲を、大和・撰津・河内・和泉より選ばれた8社中の1社として、住道社 (中臣須牟地神社) に送るとあります。(右写真) また、元弘3年 (1333年) 6月、当社の近くに赤松円心が陣地を設けた際に、戦勝祈願をしたと伝えられます。(赤松 則村 法名：円心は、日本の鎌倉時代から南北朝時代の武将、守護大名)

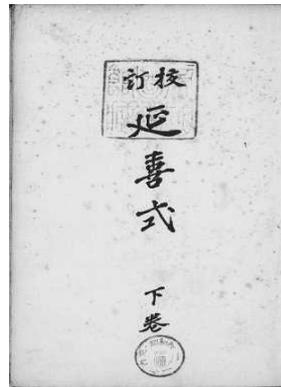
伊佐具神社は、このように格式高く由緒ある神社です。



上坂部小校章
十二弁菊花心三つ巴



伊佐具神社御紋
(雅楽器・楽太鼓)



延喜式玄蕃寮
活字訳本

凡新羅客入朝者。給神酒。其醸酒料。稻。大和國。賀茂。意富。纏向。倭文。四社。河内國。恩智。一社。和泉國。安那志。一社。攝津國。住道。伊佐具。二社。各卅束。合二百束。送住道社。大和國。片岡。一社。攝津國。廣田。生田。長田。三社。各五十束。合二百束。送生田社。並令神部造。差中臣一人。充給酒使。醸生田社酒者。於敏賣崎。給之。醸住道社酒者。於難波館。給之。若從筑紫還者。應給酒肴。便付

参考・資料

「ピアツア上坂部」「Wikipedia: 伊佐具神社」「竹林の愚人」「尼崎市神社あんない」

「国会図書館近代デジタルライブラリ」